

観陽

'07
新年号

題字：本校書道教諭
坪井宏(号 工儀)先生書

第20回

芸陽観音同窓会開催

昨年10月28日(日) 12時より、第一ホテル東京(新橋)「アンシャント」において、第20回芸陽観音同窓会が開催されました。今回の幹事担当の観音5回吉良 正志さん、同6回今坂 謙さん、同6回横野 弘二さん、同14回中崎 舒弘さんの4人の幹事さんのご尽力により、盛大な会となりました。当日は、二中 12人、観音 40人が参加され、お互いの元気な様子や近況のお話など、話が弾みましました。当日は、残念ながらご逝去された諸先輩への黙祷からスタートし、松本理事(二中22回)の開会ご挨拶、山本副会長(観音3回)の事業報告、今坂幹事(観音6回)の乾杯でスタート。種々話題の弾む中、二中ならびに観音の校歌合唱と恒例の大成理事(観音13回)のメールと、吉良幹事の閉会挨拶で締め、また来年の再会を期して散会しました。会長さんや事務局長さんは体調が優れないこともあり、残念ながら欠席でしたが、代わって、松本理事のスピーチでうまくまとまりました。(別途記事ご参照くだ

さい)時代の移り変わりを表すように参加メンバーの方々も代わっていきます。我々、観音卒業生がこれからは、当会を担っていかなくてはという責任も感じますし、久々の交流も青春時代にタイムスリップのひと時として大切にしたいメモリーと思います。今回参加いただけなかった方々にも次回ぜひ参加いただき、この会を続けていただけたらと思う次第です。

(観音20期 松本直和)

反省してます!

松本 正

人のスピーチを興味を持って聴ける時間はせいぜい3分だということ先刻承知でありながら、長話をしてしまった、反省してます。昨秋第20回在京芸陽会での挨拶のことです。

事前に横野当番幹事から「5分程度に」と釘をさされていたにも拘わらず、いざマイクを持つと、在京会の成り立ちから、あれも言いたい、これも言いたい、でもこれは止めとこう・・・話中にあるこれ加減しながらだったので、結果は8分近くの長口舌となっていました。欠席の西亀会長、奥窪事務局長お二人の代わりを勤めなきゃ・・・と些か気負いすぎた?

(在京芸陽会理事)

二中22期 松本 正

貴方がたが誇っているものなんですよ」

同窓意識が今イチとなったのは戦後陰謀によって校地が移されたことが原因だと話したのに対し、二次会的なお茶の席で観音組の一人から「松本さん、先ほどの説は違いますよ。我々は二中が先輩であるという意識は十分持っていますよ」 嬉しかったですねえ。

加えてまた世話役からは「観音高校を人に説明するのに前身が二中だという直ぐ解ってくれるんですよ」 これも嬉しいじゃないですか。

重ねて申し上げたい。二中組の先輩達は歳は喰ってても今もって最前線で頑張ってるビジネスマンも含め多士齊々なんです。まかり間違っても「生きてる化石」だなんて思わないで下さい。お付き合いして損はありませんゾ。

それ否定できませんナ。満場の皆さんガマンしながら静かに聴いてくださった。この場で改めてお礼とお詫びを申します。言いたかったこと煎じ詰めれば、二中と観音双方とも同窓としての相互理解を今一層深めて欲しい、ということなのです。

二中組には「観音は貴方がたが思っているより遥かにいい学校なんですよ」

観音組には「前身の二中の伝統は

在京芸陽観音ゴルフ会

2006-11-30

前半戦に引き続き後半戦の様をお伝えします。(前半戦の様子は広島から皆様に送られた「芸陽」会報に掲載しています。)

いやー驚きました。3年間、13回に亘りコンペ優勝者が毎回変わり、14人目の記録挑戦記事を書いた途端、重複する優勝者が出現、しかも前半戦と同じ名前の二人とは……？
両大会共すばらしい好天に恵まれ、9月の昭和の森GCでは10位までがネットスコアで72を切る好スコアでゴルフを満喫し、11月の名門千葉CC野田コースは仕上がりが抜群、まるで一幅の絵画のような美しさで我々に迫り心を癒してくれました。

紅一点を含む新加入者も5名と、若い活気が出てきました。来年も元気な再会を楽しみにしています。最後にW優勝の2人には、厳しい来年からのハンディー査定が待っています。故に2人の優勝の弁は、ごくごく控え目なコメントと
世話役 山木和雄(観音3回)
TEL&FAX 03-3323-2108

9月24日 昭和の森GC

優勝 堂元 一男(観3)
2位 榎田 辰昭(中20)
3位 高橋 滋(観4)
ベストスコア 堂元 一男(観3)

11月10日 千葉CC野田コース

優勝 山木 和雄(観3)
2位 榎田 辰昭(中20)
3位 久保田 裕二(観18)
ベストスコア 山木 和雄(観3)



堂元：良きパートナーと素晴らしい晴天に恵まれてベストスコア優勝となり、かつこれで春秋2回の優勝は誠に幸運でした。来年はH.C14位が予想され入賞は無理でしょうが崩れないゴルフを目指し、目標グロス90その他の課題に取り組んでいきたいと思ひます。今後共よろしく
お願い致します。

山木：①今年、名門コースで2度の優勝なんて……
(次は外国詞の発声)……「全くシンジラレナイ!？」

②前半戦の優勝で頂戴したユニークな松本正氏の賞状の一部を次の通り訂正させていただきます。「一流の舞台で優勝した貴方はは名門ゴルフの名を恣にしてよいでしょう。シバラクはネ……」

ここCUT!!

ゴルフリレー放談（一昨年の三宅先輩に次ぎ）

観音3回 山木 和雄

ここ数年、わが家は民放テレビと訣別している。あの騒々しさ（CM）、品格のなさ（特に芸能タレント）には、まともな精神が犯されるこちがする。願わくば広島の子孫たちもNHK中心の、心静かな人間に成長してほしい。為にいつの頃は定かでないが、その昔、「髪は終生の長い友達・・・大事に付き合ひましょう・・・」と字体を形どったコマーシャルが流れた事があったのを思い出す。このところ、私の終生の友はすっかり衰え、秋のススキ野の様相を呈するに至っている。この寂しさ儚さを癒し勇気付けてくれるのが、40年の交遊暦となるゴルフである。

ゴルフの魅力につき、いまさらここに私がそれを開陳することもあるまい。敬愛する中部銀次郎氏、（故）夏坂 健氏の諸集に見られる如く、それは人の心をゆさぶり、とろけさせ、正義の念を呼びさます。そして明日への期待と生きる喜びを与えてくれる。まさに私の第二の人生の最良の友である。

ゴルフを始めて40年近く、ゴルフへの情熱は、いや増すばかりだ。名門ゴルフ場の魔力はいまだに妖しいシレーヌ（ギリシャ神話の魔女）の呼びかけにも似て、私を処女地へと走らせる。ゴルフ場の景観に惹かれ新地でのホール攻略のスリルを味わう楽しさに取り付かれた私は、全国ゴルフ場へのチャレンジを200ヶ所と定め、昭和46年から意欲的に挑戦を開始した。元の勤務先（銀行）の転勤も幸いし、関西、四国、名古屋そして関東と気の合う仲間同士で昼夜（？）に亘り親しんだ楽しいツアーの思い出は、今、手許に残された200枚のスコアカードと共に、私の脳裏に息づいている。銀行退職を機に新たに生涯の目標を500ヶ所設定、同僚との同伴は多くを望めず（平日中心主義）関東中心の一人参加の武者修行とは、相成った。ゴルフ親睦会への加入（月4～5ヶ所のゴルフ場設定）、ゴルフ雑誌でのオープンコンペへの参加等で、十数年を経た今、計680ヶ所を記録するに至った。この間、ゴルフを共通項とした人々とのふれ合いのすばらしさ、楽しさを知り、ゴルフの底知れぬ魅力を実感している。

70才を越えた今、好きなドライバーの飛距離は日を追って低下、10年来キープしてきた80台の平均スコアも90台の後半へと一気に後退している。このままでは生涯の宿願エイジシュートも見果てぬ夢に終わりそうである。ここは乾坤一擲、まさにふんばりどころと、今年の正月から体力の復活を期して、フィットネスクラブとゴルフ練習場通いを開始した。たとえ見果てぬ夢でも残り10年間、元気にプレイできる日々を念じ頑張る毎日である。最後に（故）夏坂氏の残された「ゴルフへの恋文」の一節をご披露して、ゴルフへの讃歌を終えたい。

飛距離が自慢の幼稚園
スコアにこだわる小学生
景色が見えて中学生
マナーに厳しい高校生
歴史がわかって大学生
友、群れ集う卒業生

以上

次回は、芸陽観音ゴルフ会の若きホープ、松本 直和氏にバトンタッチをお願いします。



平成13年9月一家団らんゴルフ 鬼怒川高原Gにて



平成15年7月元、銀行仲間と軽井沢高原にて

写真が面白い 一街の情景と名手たちの演奏

観音6回 榎野 弘二

8年前に62歳で定年となり、いざ、その身になってみると鬱陶しいものであった。そこで趣味としての写真を本格的に取り組むことで、少しでも心豊かな生活を送りたいと思うようになった。とはいえ写真は独学で、カメラまかせにシャッターを押し続けていたが、5年前に全日本写真連盟に入会后、多くの写真コンテストに入選してきた。現在、アマチュアカメラマンとして次の2つのプロジェクトに挑戦している。

第1のプロジェクトは、街の情景をカメラで定点撮影する活動。地元のすみだ郷土文化資料館（墨田区）の依頼を受け、この3年間で墨田区内の川、橋、道路、駅、公園、学校、神社、寺院、銭湯の9テーマによる定点撮影を終え、来年も次のテーマを予定。同館が保存している明治、大正、昭和、などに撮影された写真と今回撮影した同一場所の写真を比べてみると、被写体の変容ぶりがうかがえて、こうした定点撮影はとても面白い。

街の情景写真は、たとえば神社や寺院の場合、鳥居、本殿、本堂、門などを撮影するだけではなく、その周辺の家並みや町並み、さらには参拝する人々などの背景なども入れて、絵葉書のような写真にしないように留意した。また、下町には多く見られた銭湯はその姿を消しつつあるが、唐破風の寺院形式の銭湯もまだ存在しており、懐かしい情景としてフィルムに記録できた。後生の人々が私の写真を目にして、「これは面白い」と興奮を抱くような写真が1枚でもあれば、やりがいのある活動だ。

第2のプロジェクトは、コンサートホールで音楽家の演奏をカメラで撮影する活動。通常コンサートホールでは依頼されたプロ写真家以外は撮影禁止だが、朝日新聞社・元写真部長の紹介により今年（平成18年）7月から月1回から2回のペースにて、浜離宮朝日ホールでの名手たちの演奏を撮影している。こうした撮影ではステージの照明の明るさや種類といった光の問題、撮影場所の選定、シャッター音、ストロボ禁止、シャッターチャンスのとらえ方などの問題があり、むずかしい分野とされ、かなり高度な技術を必要とする。そこで銀塩一眼レフカメラではなくデジタル一眼レフカメラの活用により、ISO感度やホワイトバランスの設定が自由となり、光の問題などは相当解決できたようだ。

さらに当日にリハーサルがあれば、リハーサルでの撮影を行うとか、開演中は同ホール3階の調光室からのガラス越し撮影で我慢するといった撮影場所の苦労もある。なお、高校時代に音楽部の合唱指揮をした経験があり、定年後は国内オーケストラに加えて海外名門オーケストラの演奏を楽しむクラシック音楽ファンなので、演奏時のシャッターチャンスを比較的とらえやすいかもしれない。

アマチュアカメラマンに与えられたコンサート撮影のチャンスが無駄にしないで、立派な作品を目指して努力を続け、出来うれば、「名手たちの饗宴」というタイトルの写真集を出すことが夢である。そして、さらに次の新しいプロジェクトを見つけ、カメラを人生の友とすることで、これからの人生を輝くゴールデンタイムにしたいと思っている。

以上



シブリアン・カットアリス
2006年10月18日
浜離宮朝日ホール



ギュンター・ピヒラー
2006年11月28日
浜離宮朝日ホール

同期会 だより

東京二二会

(二中22期)

松本 正

(二二会常任幹事)

この新装なった会報に、「同期会だより」が如何ように掲載されるものか、大いに関心を持っています。

と言いますのは、私が3年前から年1回、3号にわたって作った雑誌形の会報「在京芸陽」に、二中22期の「同期会だより」を載せました。それ以前は22年間に亘って同期同窓の為に「会報仁いに伊(ニイニイ)」を作り続け、22年をメドにこれを終結(集大成を刊行)させてから、その報告の場を「在京芸陽」に移したのです。つまりこの新

しい会報が、我々22期の活動報告の場でもあるのです。従って、この報告が、同期のみならず、二中先輩、観音後輩、全同窓の目に触れるか(ホントカナ?)と思えば、他の同期会はどうなさるだろうか、に関心を持って不思議ではないでしょう。

ここで我々の「二二会」について簡単に説明させていただきます。二中22期だから名付けて「二二(にいにい)」。たった1年しか持たなかった「芸陽高校」も経験したレアな期なのです。だからという訳でもないでしょうが、同窓会活動は抜群に熱心で、その結束力には定評があります。その中心人物が、名幹事長の名を恣にした故寺本和彦、前の芸陽観音同窓会長でもあり

ます。彼の没後、同窓会長を継いだのが、中本 弘、これがまた二二会の一員ですから、「モウエエカゲンニセンカイ」。

40人近く健在の東京支部二二会も、活発な活動において他の期に引けはとりません。二中先輩もゲストに迎えての屋形船遊びや温泉一泊ツアーなど、趣向を凝らした集いをほぼ毎年続けています。

この支部の中心人物だった男が昨年2月、急逝しました。常任幹事の高木陽雄(はるお)。二中時代の綽名がエノケン。野球部の後輩からマジで「榎本さん」と呼ばれたこともあった。

東京支部では、余りにも家庭を顧みず会の面倒をみるものだから、先立つた奥方から生前「二二会ってキライ！」と恨まれた位。「西に寺本あれば東に高木あり」。同期の要、双璧だった。

その二人とも、もういない。町田で行われた葬儀は遺族の希望で「二二会を主とした友人葬」。会から生花1対を捧げ、私が弔辞を読み、広島から駆けつけた者も含め20人近くの仲間が校歌「彩雲なびく」を歌って送ったのです。

高木常任は失いましたが、東京二二会は活動を続けています。昨年の当番幹事は元三晃金

属に勤め、フイリピンでの企業戦士から戻ってきた小栗啓市君。彼が会の行事で道をつけてくれた江戸東京博物館は、いつか行ってみたいと思いつながら中々実現出来なかった処、この企画のお陰で、それ以後半年のうち「兵馬備展」「浮世絵肉筆展」と、私2回も足を運んだんだから、二二会の効用ここにもありき、と言えましょう。



「十八年度二二会報告」 当番幹事(二中22期)

小栗 啓市

さて、幹事を引き受けたがどうしたものか、これと言って直ぐにはよい家は浮かばなかった。室内が良いものか、はたまた外か、まずは足を運んで調べることになった。早速上野の森へ、美術館は数々あれども一案も浮かばず、次に都庁にも行って見た。観光案内所を訪ねて貰ったパンフレットから名所旧跡も調べてみたが、思わしいものもなかった。四月はかの有名な千鳥が淵の桜も咲く。お堀端の絢爛たる美しさの下で、昔話に花を咲かせ、心行くまでうまい酒

が飲めればと、夢は見たが、人込みや、空模様を考えると、現実には厳しい。そうこうする内に江戸東京博物館で「ナポレオンとベルサイユ展」がある事を知った。

ナポレオンは、ご存知のとおり十七世紀から十八世紀にかけて政治、軍事で卓越した知識と指導力を発揮して改革を図り、ナポレオン法典を作成する等、国民的英雄であった。江戸東京博物館では、常設展も素晴らしい。江戸から東京に至るまでの歴史と文化を、立体的に作成し展示してある。武士や庶民の生活を、家屋、家具、庭の垣根や樹木、川や橋梁に至るまで再現したミニ江戸情景は一見に値すると思った。

ベルサイユの展示品は、既に本場で目にされた人もいると思いましたが、日本で見るのも又良いのではと、常任幹事の松本氏、亀井氏に計り賛同をいただいた次第です。

次に天候が気にかかる。昨年に良い気象庁予報部に問い合わせると、四月中で最も晴天の確率の高い日は統計上四月二十七日と言う回答で、開催日は決まった。

懇親会場は両国界隈をあちこち探索した結果、場所は第一ホテルが良さそうだと思います。和食の宴会部は予算面で一考を要し、同ホテル内の東天紅で食してみた。年配者向けのメニューも考えてくれると言う事で依頼した。

当日は話も弾み、盛り上がりつつある様子を見て心からほっとした次第です。

今回の出席者は、高島さんにご夫妻で、会友の千葉さんも来てくださり総勢十八名でした。皆さん本当にお疲れ様でした。

以上

観音20回新年会レポート

(観音20回)

山田(徳永)

2007年の在京観音20回同期会は、1月20日(土) 18:00「汐留シオサイト」内の超高層ビル「カレッタ汐留」の46階「響カレッタ汐留店」での「新年会」でスタートを切りました。参加者は男性10名(田中、升田、伊藤、栗栖、大歳、松原、松本、齊藤、高橋、志和木)、女性10名(山本(福場)、申山(三村)、藤原(土石川)、升野(田村)、山田(徳永)、岩瀬(山領)、石田(伊藤)、黒田(荒木)、横山(平野)、安岡(泉)の計20名。

会は日組の志和木薫氏の乾杯の発声でスタート。46階の会場からの素晴らしい「東京タワーとレインボーブリッジ」の夜景をバックに「長崎五島列島直送の刺身」「佐賀は唐津から空輸された『川島豆腐』」「岩舟麩と大根のおでん」「鮪のあごの天然塩焼き」「米沢牛と男爵羊のコロッケ」「奄美大島の汁かけご飯・鶏飯」等々、素材にこだわった美味しい料理に舌つづみを打ちながら、思い思いに「ビール」「焼酎」「ワイン」で盛り上がりました。



今回初めての参加となった高橋二郎くん(F組)は昨年8月に転勤で東京(新宿)勤務となったそうです。全員集合の記念撮影の後に21:00には一日散会、二次会(13名)に移りました。

新橋駅そばのカラオケ店での二次会は酔いも手伝い、のっけから大盛り上がり。升田和一くんを皮切りに、珍しく弾けた田中義一くんの前川清ソングに栗栖正くんの演歌、志和木薫くんの懐かしいフォークソング、齊藤登くん、松本直和くんの横文字ソングの大競演となりました。途中、この大音響にもめげず、酔いが回ったのか気持ち良く居眠りする姫も約1名出現！愉快な証拠写真(笑)もしっかりデジカメに納めました。

ベは大歳文雄くんのエンジェル

ルト・ファンパーディングの「太陽は燃えている」の熱唱に誰となく全員が起立し肩を組んでの大合唱！こうして同窓の仲間との名残り惜しいひとときも、次の再会を約して、11:30に解散となりました。

同窓会に初めて出席して

(観音17回)

久保田 和子

2006年9月16日に観音17期の同期会が、広島県民文化センターで開催されました。

その時に、クラスメートだった川野(旧姓 山下)純江さんとあまりお話ができなくて、それでは、10月28日芸陽観音同窓会に出席して、そでお話しようという事になりました。

私の父(谷口 五郎 13回)と伯父(谷口 清 9回)が二中の

卒業生でしたので、在京の同窓会が毎年あることは存じておりました。とても楽しそうに出席したときの話をしていました。で、興味は持っていました。まさか自分が出席するとは思っていませんでした。

最初は少し緊張しましたが、

編集者より

これを機会に、同期の方や他の学年の同窓の方でご存知の方がいらつしゃいましたら、今年もお誘いあわせの上参加してください。また、お父様と、伯父様は、まだご健在でしょうか？お二人にも可能でしたらご参加をお願いします。

広島二中観音芸陽会17年度収支決算書

平成18年4月1日

《収入の部》

前年度繰り越し	158,025
会費年会費 81名10/29迄	243,000
108名3/31迄	324,000
大会費	543,000
収入計	1,268,025

《支出の部》

振替手数料	12,950
大会案内用紙他郵送料	50,731
大会費 プリンスホテル	465,000
会報@280×250	70,000
打ち合わせ会その他	23,870
規約会報等郵送費	130,450
封筒等 作成費	18,323
支出計	771,324

差し引き 496,701

次期繰り越し金 496,701

事務局よりのお願い

- 一、初年度会費（維持会費）納入にご協力、ありがとうございます。十月二十七日現在、ご協力を得ております二三〇名の方々のご芳名を、次頁に掲載させていただきます。
- 二、今年度の同窓会は、観音7回、8回、15回の皆様に幹事をお願いしております。ご尽力のほど、よろしく願います。
- 三、当会の円滑な運営（連絡）に資するよう、各期毎に幹事の選定をお願いしております。（会則七・八条）。未だ事務局へのご連絡を頂戴してない期がございますので（次会報にて幹事名掲載予定）、ご友人同士お話し合いの上、事務局迄お届けください。
- 四、皆様のご意見・ご感想をお寄せください。近況報告、趣味の話等、誌面作りにご参加ください。お待ちしております。



20	20	20	20	19	19	19	19	18	18	18	18	17	17	17	16	16	15	15	15	15	14	13	13	12	12	9	二 中 回	
牧尾	横田	武田	高橋	和田	三吉	三川	森田	岡島	八木	三宅	内村	伊藤	川崎	胡子	梅田	落合	井原	中尾	田中	倉本	岡本	三宅	植花	高瀬	坂下	伊藤	西亀	現姓
良典	辰昭	晴児	昭	浩	宏彦	昭三	精一	知一	稔	紳童	佐武郎	智之	利秋	英幸	史彦	一郎	義量	博邦	正己	馨	文夫	史郎	武	安隆	雅章	得平	達夫	現名
牧尾	横田	武田	高橋	和田	三吉	三川	森田	岡島	八木	三宅	内村	伊藤	川崎	胡子	梅田	落合	井原	中尾	田中	倉本	岡本	三宅	植花	高瀬	坂下	伊藤	西亀	旧姓

3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	1	観音 回	25	25	23	23	23	23	23	23	23	23	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	21	21	21	21	二 中 回	
渡部	高田	山本	竹本	大谷	眼龍	藤田	矢沢	谷口	宅明	池田	井町	國廣	現姓	渡部	濱岡	重見	中神	山縣	森川	平本	佐伯	千代原	石丸	松本	松本	龜井	上杉	石川	行年	山田	淡	宅明	末岡	池内	藤川	古谷	奥窪	小田	現姓
剛	昭一郎	和雄	すみ子	末子	朋子	尚美	朝乃	正明	多聞	芳弘	孝司	寛子	現名	義隆	平一	三士	義三	勝	靖夫	善一	榮三	邦生	惠照	正	正	賢伍	襄一	利之	恒雄	康彦	德夫	香澄	恒美	正躬	浩司	峻太郎	五郎	盛斗	現名
渡部	高田	山本	難波	大谷	岩田	藤田	富田	谷口	宅明	池田	井町	田村	旧姓	佐々木	濱岡	牛尾	中神	山縣	森川	平本	佐伯	千代原	石丸	松本	松本	龜井	上杉	石川	行年	山田	淡	宅明	末岡	池内	藤川	古谷	奥窪	小田	旧姓

9	8	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	観音 回	
百武	宇都宮	斎木	山崎	西村	宮川	小出	寺本	柳田	牧野	河西	福岡	藤田	浜田	村上	平田	田村	中原	三瀬	織田	田中	秋元	榎野	今坂	中田	清水	三谷	吉良	貞広	安藤	橋本	桜井	高橋	上田	山田	下鳥	森政	堂元	平塚	山本	山本	現姓
妙子	浩三	勝司	勝成	彬	京子	隆	昇	俊美	寿子	年勝	尚美	光江	光子	博義	慶子	和夫	好江	千鶴子	民子	弘二	譲	澄子	幸浩	吉秀	正志	篤良	幸代	野口	橋本	今村	高橋	上田	井出	桂子	公威	忠雄	一男	功	豊子	剛也	現名
明賀	宇都宮	斎木	山崎	西村	下村	寺本	木本	牧野	名柄	福岡	山野	丸子	中川	平田	山田	加藤	大谷	金崎	益井	神田	榎野	今坂	西川	清水	三谷	吉良	貞広	野口	橋本	今村	高橋	上田	井出	下鳥	森政	堂元	平塚	芝	山本	旧姓	

14	14	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	観音 回
江島	児玉	三宅	中崎	相	真田	森	湯谷	九子	江島	小林	杉野	土居	高川	和田	大成	岩崎	谷本	佐伯	森	島田	堂免	田中	後藤	世良	森脇	本多	山岡	浮田	山根	丹下	立川	渡辺	高原	藤田	渡部	西平	山野	瀧山	越間	長松	現姓
昇一	通子	洋	舒弘	繁太郎	佳代子	勝和	成人	隆志	令子	信博	信子	将意	祐子	正稔	正樹	千鶴子	多德	紗代	忠俊	拓史	清美	秀穂	幸子	宣義	峻一郎	孝太郎	義典	萌男	華子	容子	妙子	敏章	孝次郎	洋子	亮一	美貴	真純	昇	建二	宏	現名
江島	柴田	三宅	中崎	相	山下	湯谷	九子	山田	小林	藤井	土居	五阿弥	和田	大成	松尾	谷本	近藤	森	島田	上田	田中	増原	世良	森脇	本多	山岡	浮田	原	山本	大町	渡辺	高原	笹井	升田	西平	山野	瀧山	越間	長松	旧姓	

20	20	20	20	20	20	20	20	19	19	18	48	18	18	17	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16	16	16	15	15	15	15	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	観音 回
森山	齊藤	小林	山本	松本	申山	江草	小豆原	田中	永田	菅	内富	大中	和田	藤井	上田	原田	香藤	中田	川野	久保田	吉永	岡本	岡井	土井	沖野	野村	奈良原	藤井	平岡	西山	有田	新谷	細木	三宅	佐伯	今本	木原	堤	古田	正雄	現姓	
康三	登	剛	由美子	直和	絹恵	登喜子	博子	義一	洋水	健一	幸司	進	真	裕	珠代	幸子	繁常	君子	純江	和子	綾子	義次	哲太郎	泰秋	正則	浩子	昌弘	章子	論	善博	史朗	進治	惠彦	素子	博光	博行	智行	金光	茂雄	正雄	現名	
森山	齊藤	小林	岡野	松本	三村	平尾	長久	田中	永田	菅	内富	大中	和田	藤井	小柳	音堂	香藤	佐藤	山下	谷口	吉村	岡本	岡井	土井	沖野	山本	野村	藤井	平岡	西山	有田	新谷	芦刈	三宅	佐伯	今本	木原	堤	古田	旧姓		

26	25	25	25	24	24	24	24	24	23	23	23	23	23	22	22	21	21	21	21	21	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	観音 回
栗栖	江口	道上	国行	北島	入矢	池田	穴堀	上野	宮下	脇田	青木	榊山	藤村	叶谷	田中	谷本	小林	能野	佐々木	猪原	倉成	升野	藤原	富山	富岡	小野	石田	伊藤	山下	志和木	竹森	岩瀬	松原	高橋	升田	安岡	掛水	黒田	美和子	荒木	現姓		
達	英則	正邦	薫	忠晴	桂史郎	利行	壽枝	幸江	護	直	幸枝	久佳	都朗	三枝子	英治	光晴	一雄	加昌	マリ	志摩子	陽子	由美子	和江	美岐子	純次	和隆	洋子	清登	清代	薫	裕子	清子	邦雄	昭子	和一	千寿子	通子	美和子	荒木	現名			
(敬称略)	栗栖	江口	道上	国行	北島	入矢	池田	橋本	石田	宮下	脇田	青木	榊山	藤村	叶谷	田中	谷本	小林	能野	浜口	宮原	富山	富岡	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	志和木	山下	山領	松原	永野	升田	泉	千葉	千葉	荒木	旧姓				